

集部

欽定四

集部 本堂集卷五十八至

詳校官庶吉士臣李傳熊

主事臣呂雲棟覆勘

校對官中書臣 總校官進士臣 謄録監生 劉 髙

坤 中

鈴

ス m. つ int かはら 欽定四庫全書 用執他弘而信道篤此砥柱而不移見善明而用心 Seaso decreased 謀饒直閣應龍啟 ののでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本には、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本 THE PARTY STATES A 公司 在海南村 中国的农村 在166 高執壁男封縣出使天之下行 歸忧恭惟其官材貫精粗學該 衣堂集 Contract Contract of 宋 撰

得 多好四月有量 留訟舍近而扶風之右路紀行碑方今人物之寂寥安 之遣使臣屢驅馳子原隰監司而用御史皆振撼于山 淵東熚之風憲上聖徳頌方競傅徂徠之言趣家人裝 川以先王之法齊吾民以君子之道持斯世如向文簡 何遽聽忠肅之去身固輕于一葉名愈重于兩間皇華 '奏裁雪罪如周濂溪之澤物洗冤遠而大江之東春 炯蓍龜之前列靡由一介之紹親結九重之知斷 公輩之恭錯者言于越密接上都嚴察之秀將依然 白

枯猶活茶毒如甘受命父師凜就放乎本色授徒鄉曲 一采之十分 掬賀湖水以洗吏 污登蓬萊山而訪民 隱懷 我杜公非汝杜公幾欲爭于界上自規模之幾着而精 飛翼樓之遊熟路之駕輕車便盘整觀象門之武其梅 其惠者吾父吾母憚其威者若神若明信天下之事無 丕顯文誤以防禹亦小范老豈大范老私相語于軍中 田里之嘆愁為甚見大夫之材可使親天子頌公一行 . こういていた 不可為見儒者之功隨試軟著宣屋之思前席寧人稽 本堂集

曲 舍而粉歲月此由中之欲試調善後則未知獨恃高 地難名樂趣頗慰平生轉而超漢闕之班及此向 深俗機輕生殆甚于他鄉當若治家而長子孫不以傳 之戌其大器也則當聞之土務民稠數食常如于機歲山 道益自琢磨誤蒙當路之見知押被公車之辟置振衣 岳麓拜揖南軒遗教之風回棹秦淮盤薄西山舊遊之 **凄冉冉其中年偶叨雁塔之題獲玷鷺洲之長遂因闡** 垂容履與百姓爾汝倘無輕山縣之竹松庶一介夤 卷五十八 約

好 四 再全書

劉士安之俊竒甫八歲而獻頌賈文元之顏悟能五 之云初豈通名之敢後恭惟其官金並沆瀣玉樹琳 緣或可與公門之桃李寸丹所倚點墨非誣 翔選觀讀平生未見之書容與蘭臺窺萬世不刊之史 縹組戎旃蓬萊增氣濫等已經桑梓借祭月色 地位為六十翁之別然天庭無 談經 通王帥然人其故 童科自先皇帝親握以來而本色官若取諸寄射 本對集 點、關 之驕内馬斯 當問戍 部 聊

一 好 近 庫全書 年實命不猶覺丹丹而將老偶厕躬于營壁謬職教丁為洲 密之班其樣不入時癖惟嗜古用心良苦徒死此以窮 其歸相君言焉猶有所待姑屈臨于帝里界終畫子師 崇再轉為丞又應裁五色之台 寧纤纤徐徐而平進不 **翕翕訊訊以就趨薄言依紅于桑還錦天子若曰式過** 神赞者多此獨何時可袖經綸之手行且有部徑蹄疑 垣官與賀湖水而同清名此春望山而尤峻笑談之頃 逼于雲霄外則屢分于風月一麾出守咸羨未二毛之

2 .. 10 mg /. 1. 1. **變私役僕僕通名恭惟其官清映銀潢秀騰王葉文章** 碧幢祭畫非一日之知名墨綬承流傍五雲而問成變 希厦屋之生歡出于寸丹寫之尺素 揖南軒遺教之風樂烏可已盤**薄西山舊遊之地情則** 稍因聞道之餘獲遂琢磨之願誤知當路押上公車瞻 相依偶馬通閨來此製錦顧松行林之至陋合笑蓉幙 其轉依口保障繭絲期對雪溪而無媤與鄰里鄉黨願 通趙帥然崇任改 e 本堂集

多定四届全書 熬杖便合校響天禄之書雲近蓬萊自欲應接山陰之 華唐之贺白正 而自能禮樂宗漢之間平和而有節仕 書精采坐令東浙之塵清行看鳳倫趣歸為列某敬歌 勝寧迁朝武密贊戌旃望幕聲華益使南陽之勢重飛 行其志舉施子身身凌湖于丹梯既踐敬于華責火然 冒然來只何所恃哉時異事殊况涉縣灘之浩渺雨凌 末第展轉十年及教人為當備鶯州之講席曰知已未 屢從鳥幕之辟書兹馬設試于鳴琴或者深虞其傷錦

精采坐令東浙之塵清望恭聲華益使南陽之勢重以 祭畫油幢借重東方之會府效官墨綬倚為北道之 こくこり もしに 風震尚祈厦屋之帲幪歸倚之深敷宣罔既 承教可期通名敢後恭惟其官姿抱天秀眼空時流 正傳學經組干夷途盖彈別于文性然弱瑪豈疾糊 上規模看稷契車陶之好樣靠裏學問得周程朱子 取快和鶯每相應而徐鳴乃睹左馬而居上价飛書 通單帥恭謂大改 本堂集

多分四庫全書 容淹久其飲敬前篇同數宣問既 自結知于天子豈求聞達于諸侯雖紅蓮緑水之中間 勇况深得故家之矩範盍長驅熟路之功名此方伏劍 語超瓜僕僕摯櫝變獎恭惟其官意氣凌霄精神滿腹 赞戌帥聞手奪平泉相之芳學製男封汗顔太丘家之 得而養志然紫極丹屏之左右正以待賢將有詔催不 召黃鐘之在廣靜而自和干將莫那之藏鋒動而有 通李帥機实孫改

兹問戌子剝溪時異事殊况涉縣灘之治渺材疎力薄 聞史館之除王子純之領是官即有集賢之部同 由是以益宏聲聞不知其旁達昔韓持國之居乃職隨 棋 于西垣兹復借籌于東國胡然廉取惟欲安行月析燈 第之嘲烏幕奉書很辱諸公之遇幸兩通班于漢闕及 報及大規模其佔畢陳編踏扳末第鶯州冷席粗逃奉 析厦屋之帡樣歸倚方深數宣罔既 但見幕中之整暇風花雨葉何妨鏡曲之從容事功 111. 本堂族

自結 精采坐令東浙之塵清望幕聲華益使南陽之勢重以 役有期通名敢後恭惟其官姿抱天秀眼空時流向 一多定四月全書 而 傳自分丹柱子月庭盖照青藜之夜閣然瑪瑪豈疾趨 规 帥府借材湛水壺之精采男邦學製很墨綬之塵埃私 模看稷與卑陷之好樣靠裏學問得周程朱子之 取快和鶯以相應而徐鳴乃滕左馮而居上价飛書 知于天子豈求聞達于諸侯雖紅蓮緑水之中 通 **倪帥幹洪啟** 卷五十八

同 **划溪之戊立官以為長也亦欲推學愛之心同年固有** 容淹久其嵌款末第展轉十年反教人為當備驚洲之 得而養志然緊極丹屏之左右政以待賢將有部惟不 氣之秀發胸中九雲夢有湖海士之聲清學從俯拾 前恭惟其官清安山立傑作金聲魁下三台星皆天 席曰知已未廣從烏幕之辟書偶通漢闕之班來問 月袍惟密籍所樣之力其為歸倚罔既敷陳 通周帥幹方啟 7 1 ٢

辟饒 客帥 欽定四庫全書 第鷺洲講席幸迎奉弟之嘲鳥幕辟書誤辱諸公之遇 之勞發報警曹妙摘伏發好之用盤車理禄推洗冤澤 巍科便盍高獨于要路雖特立尋常之表亦不解州縣 物之心一時成慕其高明諸公爭先而辟置城城幕中 之畫總出給餘皇皇使臣之華有資藩飾倚重乎孱翰 地簡知乎咫尺之天賓主優游政相依蓮池之上周 昨切班子漢闕斯今問成子則溪冒為所行未知所 神仙引領將難淹蓬閣之間其佔畢陳編踏扳末

恃立官以為長也亦欲推學爱之心同年固有情乎 袍目 役有期通名敢後恭惟其官秀騰王葉清映銀潢禮樂 帥 くこうこととき 宗漢之間平和而有節文章輩唐之賀白正而自龍雖 公族之多賢翳夫君其獨異火燃黎杖便合校警天禄 之書雲近蓬萊欲自應接山陰之勝寧廷朝武容費 府借才港水壺之精采男邦學製很墨綬之塵埃私 惟宏籍將懷之力 通趙帥幹益瑛改 本堂集

多好四月全書 從容付看鳳編超歸為列 府月析燈棋但見幕中之整服風花雨葉何妨鏡曲之 第年四月全書 ■ *** 色正森全斗之光芒萬項清涵渺江湖之涯沒出處俱 心聽命脩贄通名恭惟其官振鷺羽儀鳴鸞釣度五行 雄藩題坐望達閣以非進屬邑承流指瓜期而甚越洗 平駕雖地之千嚴萬壑足遂雅遊古之九伯五侯最為 存于矩題表裏無得而瑕疵盍要路以鳴鞭尚別車之 通北廳羅俸桂啟

憐才幸七層之合類揭來試令知有字民時異事殊况 皮偶免子於之前授書為幕自唯機筆之迁誤諸老之 姦滿庭秋月出醫國方而燕民瘼 闔境春風是為闋决 重寄故凡通守之職必得如公之賢揭照膽鏡以燭吏 乎治中豈曰笑談子方外鳳吟紀化既廣南岳之吟豹 尾雞翹即選甘泉之武甚蘇嵌末第展轉十年分席虎 へこう これ ハートー 涉縣灘之治渺雨淩風震尚祈厦屋之帲幪 通南廳余俸東改 私堂集

多好匹屑全書 賢其出處方憂憂乎州縣勞人之際如治家然區區乎 魏科之拾芥益要路以鳴鞭然而老成之典型惟欲聖 峻胃馬徼福敬以通名恭惟其官一片古心四明問氣 居依梓里娘未親雪壁之清成及花封幸獲倚星屏之多安匹盾全書 圖 卓哉定見此砥柱其不移展也真清酌貪泉而覺爽自 官豈詩酒從容以萬坐千巖而為樂姑栽培于遠業户 錢殼央獄之間亦盡心耳及是治中之處若為方外之 人陸淹賢公曰有道蓋春秋會計重六雄十望之設

文定口草之時 分陰 年反教人為當備驚洲之講席曰知已未屢從烏幕之 梯級於峻除好覲于王請行所學 終屏風駕祭樂父母之那墨綬初承謬忝子男之國趨 辟書偶迁淡之賞音乃搴縣而通籍揭來試邑知有字 將令桃李之俱春震風為懼所恃分榆之同社易地 僕僕教檢發發旅惟其官天稟粹醇風規雅潔主璋 通東廳余俸珍改 本堂集

免朝于羣弟更棲烏幕偶見録于諸公曩而聫漢闕之 復家氈以光史竹某一 潘 雲近達萊方有資於君重香浮蘭檢恐隨趣子公歸 撫官譜鱼領要官世皆借逕以疾趨我獨盈科而後進 文物復澤之道德之光鐘馬家聲自收以單點之樂盖 · 何笼庫成知召原明之有才盤薄花城見謂范竟夫 係出肘後方以無民應康功之歌韵為治狀之籍班 可賴乃顧左馮之近暫為上佐之留揭胸中鏡以燭 J. Lime 科奚補五辟自勞分坐虎皮

たいり ラインド 奏有諸內則形諸外窮所養者達所施暴分丹桂於月 堂堂正氣胸中萬甲之韜藏颯颯文聲筆下六丁之奔 班及此問到溪之成局然來只何所恃哉舊想甘常幸 庭盖照青藜於夜閣謂琚瑪豈疾趨而取快和鸞當應 舒華元慎久飲净雪之聰明承乏附庸將效戴星之出 有芳塵之可挹余當為家依大厦更知凌雨之無虞 入超成孔通數積惟寅恭惟其官志古學變學今游夏 通能察判同孫改

節以徐鳴自回棹于秦淮意其輕外復盤車于禹穴亦 多好四戽全書 公之遇一昨切班子漢闕斯今問成子到溪胃為所 曰時中乃知君子出處之方不隨世俗冷媛之習風清 [學知名之師魯故能為吏治究心之子韶此獨何時 知所恃立官以為長也亦欲推學愛之心同年固有 扳末第鷺洲講席幸逃羣弟之嘲烏幕辟書誤辱諸 飲經綸之手行且有詔徑齊凝密之班其佔畢陳編 辯掃清選閣之塵水立賓筵照微鏡湖之水惟其 似

Reno let Liter				情子惟密籍所樣之力
				" " 之力
本堂集				<i>X</i>
+11				

本堂集卷五十八			金安四月全書
カナハ			
			卷五十八

欽定四庫全書 てこりる へいう 紙役有期通名敢後恭惟其官秀分喬木清雅芳蘭 禄兵游借重東方之侯國銅章小吏倚為北道之主 啟 將莫那之藏鋒動而有勇大日黃鐘之在廣靜而自 本堂集卷五十九 通李知録名啟 原書作者朝代譌誤 本堂集 明 陳著 撰

多云四月全書 敬末第展轉十年分席 虎皮偶免子於之前授書烏慕 和學彩官路之纓隨著王官之績益徑踏于華貫顧康 令知有字民時異事殊况涉縣灘之治渺雨凌風震尚 自唯機筆之迁誤諸老之憐才幸七層之合題楊來試 聞名姓已登記于槐庭将有神仙相招邀于蓬島某敬 取于總曹自非身兼數羅其才何以表率羣轄之上仄 祈履屋之好懷 通王司户 應子啟

久已日華全時 官以緑袍槐笏此亦借留地之米康木天行當名入茶 姑 之正傳自拾芥之取巍科盖鳴鞭而馳要路顧于筮仕 珠禄英游增重東方之侯國銅章小吏倚為北道之主 ,裴琰之之才名州縣間不謂之勞朝廷事均欲其辦 問成有期通名敢後恭惟其官姿抱天秀眼空世粒 上規模看稷契皇变之好樣靠裏學問得周程朱張 取板曹作數喜詩良都杜審言之負抱號霹震手共 科奚補五辟自勞分坐虎皮僅免嘲於羣弟更棲鳥 Ų 本堂集

金月口月八日 曷然來只何所恃哉時異事殊况涉縣灘之浩渺雨凌 幕偶見録於諸公囊而聫漢闕之班及此問到溪之成 和粤會迹子江湖之間盍致身子雲霄之上乃眷藩輔 風震尚祈厦屋之所樣 (問成云初登名敢後恭惟其官姿抱天秀眼空時流 將莫邪之藏鋒動而有勇大品黃鐘之在漢靜而自 禄英游借重東方之侯國銅章小吏倚為北道之主 通吳司法紹元啟

官居獸曹與大尹爭是非如董氏子使那人感恩信 てこう こここ 昔都尉何官國士亦先為是委吏下職聖人猶屑親之 于江湖益龍縣子雪漢乃眷關輔之地不解虞儲之司 徐恭軍行聞芝派蘭檢之煩即為米廩木天之名 治粟雖勞在通材而益辦種花可服非拙政之敢知私 如金僕姑發則必中踐履如玉界尺即之愈温自鵬運 有期通名敢後恭惟其官姿抱天秀眼空時流議論 通余監倉鎮改 本堂集

幕辟書很辱諸公之遇一 盖能盡職于小官即是可覘于大用好屑鳳繞趣入母兵匹库全書 ~ *五十九 **多定匹库全書** 從容醴局共觀麴縣之規瑟縮琴康未信經歌之政將 位要惟科撫字之並行心之所懷言不能盡 行某佔畢陳編齊扳末第鷺洲冷席粗逃羅弟之朝 粉榆之分底改修竿續以通名恭惟其官清濯芳蘭 溪雖云為米折腰 通 程比較禁祖 知有司 昨通班子漢闕斯今問成 出 納之謂各然恐素食 鵷

曹之司周忠厚之語辭既沈酣而有得漢嚴宏之權法 節以徐鳴瑪瑪不疾題而取快身解簿領之寄乃專酒 秀分喬木風流醖籍詩書有味而自知宦學典刑富貴 逃羣弟之嘲烏幕辟書猥辱諸公之遇一昨通班于漢 復斟酌而後施蓋凡盡職于小官正以致身于大用好 逼人而若兇早有鄉曲之譽是真班著之英和鸞惟應 2.10 ml 1.14. 闕斯今問戌于剡溪以縣令受教於玄明當加飯而莫 看鳳經趣入為行其化畢陳編踏板末第鷺州講席幸 本堂集

錫定四月全書 歸倚 講席有嚴增重東方之會府鳴琴自試倚為北道之主 問是朱張程卻之正傳自拔萃於園橋億萬計之中 天秀眼空時流 如故人垂情於元亮必具酒以為数凡可庇存是為 勢於擊水三千里之上林教云自分丹 况於原知敢繳新庇林教云承教可 恭惟其官姿抱 通舒東教必得林西教文別改 向上工夫看稷契皇葵之好樣靠裡學 閣于 昕 鈥 琚

免潮於禪弟操歌畫慎偶見録於諸公兹通席之有緣 增重蓬萊之境紅歌所被已挽回鄒魯之風綸終有來 瑪 宣疾趙而取快和鸞惟應節以徐鳴薄遊片藻之宫 くこう言 聊 看超就向変之列其 則爱人何以教我其為瞻倚罔既數宣 抱琴而自武縣令承流而宣化吾斯未能君子學道 **超膚使倚雲闕以建臺墨綬平官指雪溪而問路幸** 通兩浙常漕掛啟 1.14 科何補五辟自勞分席書堂催 本堂集

動定 四月全書 竊惟自一命而上當以及物而為心得百里而君庶於 嘗於掘機之未乃獲歸臨照之中散畧奏牋敬脩園櫝 莫為之我主遂使後輩每思古人陳河陽之誇方與守 親民而行志奈何積樂迄至難言沸煎熬其萬端如投 湯門紛督責其交集真坐針氈或者雖有以自貽然亦 臣獨 居上者執扶持之盟故在下者得展布所學常嘆此風 隆地 拒圖今日之有天不自激昂是為棄暴恭惟其 加之信重無江寧以難自任監司皆聽其設施此

是非 華子黑多力排好佞即紹聖攻章蔡之忠自注云面 泰山喬岳記知雲雨變化之神方諸老姐其彫疎而我 官身都元氣心冰聖涯霽月光風中有水雪稜層之 聞三世以皆賢此豈止邦家之光抑亦關天地之運然 · / *.) · · · · · · · · 公卓乎偉特家學在斯震衷所知爰復授于青檀益 驅馳于二浙以表倡于四方聲望素孕精采立起 御史獨步今日固賴文通轉運馬得福星又須子駁 如南渡决向潘之議自注 本堂集 ホ 固有一門而相踵 有

銀定匹庫全書 色授徒鄉曲妻冉冉其中年偶切雁塔之題獲玷鷲洲 隱必達甚如慈父母之相親吏奸不行成曰活神明之 西山舊遊之地難名樂趣頗慰平生轉而趨漢闕之班 之長遂因闡導益自琢磨誤蒙當路之見知狎被公車 用兹始其梅枯猶活茶苦如甘受命父即凛兢兢乎本 可畏激清波以洗積獎扇廉風以醒羣饕吾道之亨人 辟置振衣岳麓拜提南軒遺教之風回擢秦准 此 向則溪之成其大器也則當聞之土瘠民稠艱食 盤溥

非 長子孫不以傳舍而茍歲月此由中之欲試調善後 使者祥刑馳辔浙 雪繭以通名望霜臺而歸敬恭惟其官一門文脈干 竹度一 誣 知獨情高明曲垂容覆與百姓爾汝倘無慚縣山之 如於機歲山深俗擴輕生殆甚於他鄉常若治家而 通洪憲魏改 介黃緣或可與公門之桃李寸丹所倚點墨 河之左書生學製問舟到水之湄蠲 本堂集

|銀定四庫全書 聲獵獵而班行之緊步揚揚宜重與于田檀乃出供于 此官伯父之薦于榻前曰臣好可以為相矧州縣之傑 道心公卿大夫交誦清流之德兒童婦女知為世臣之 司之選眷祖宗重億兆民之命為社稷綿干萬年之基 家表以簪裳淡如章布先正之識于槐下謂吾郎必做 服清香畫或南時賢刺史之庸玉節星乾又入才監 惟其人則錫之福然而平園公既往久無懲奸舉善 風源溪子復生則有澤物沈冤之學見大夫乏材可 **基五十九**

使新天子擇公以行出其緒餘遊子神采大則題盗奸 懷於鑽仰一朝獲愛于察容恭惟其官高山龍虎治世 持星臺之節將指司均問雪溪之舟强顏學製幾載積 師言每說鋒車之消息 力寬而拜一分之賜仰觀乳象頓收貫索之光茫俯聽 鳳麟颯颯文聲筆下六丁之奔奏堂堂正氣胸中萬甲 完以息小則墨劓剕官不冤吏饕散而疏十愆之刑民 通楊提舉同祖改

炎定四重全野

本堂集

華之選握昌黎為博士甫聞晨齒諸生之言命石洪作 鱼グロ 蒞止 碑頌藹如官有千斯之儲特為土直 民拜一分之 立登抵跬步到甘泉之境急流勇退忽長揖出光範之 祭謀又在暮取一人之列 民談之頃 神益者多 通疏宸 之韜藏自赞畫子宣臺早記功於盟府人固逆規其大 用公亦以遠者自期遂離州縣塵埃之勞徑上館閣清 以趣還亦曰輕車而就熟翱翔宗序馳驟率途要路 惟安乎仕止久速之宜故在於咨度敏謀之項駕言

孝廟時若文公以南方之第一流為東浙之常平使非 賜最係本根不有君子其能乎類非俗吏所為也專稽 欠己の目心時 需之行且召矣 華使臣有光久煩君重侍從近臣虚位留待公歸特心 能回其議論雖唐悦齊不少恕幸追前哲不聞遠猷皇 但究心於煮摘率為留意於撫摩其風力有王魯國弗 外臺赞畫聳蓮幕之聲華下邑承流趣瓜期之消息發 通劉憲幹仲益改 本堂集

里而出映褐來咫尺而近天劉本蜀人 裁尺素庸勢文函恭惟其官振鶯羽儀鳴鸞韵度問西 銀戶四月年書 喜星沈于貫索清歸天闕已看雲近于蓬萊某伯畢 都之人物今有幾人湖後溪之家風獨傳一 官其必以賢而為輔故凡學道罔不盡心峻倚霜臺應 平反之議春回謝筆廣珠旅欽恤之仁自古惟刑之該 編踏扳末第鷺洲冷席幸逃奉弟之嘲烏慕辟書很辱 競 流之深戒寧廷朝武暫存使軽風肅賓筵助繡斧 盖華貫之先登 脈頃從萬

とこう見いか 得而瑕疵守家傳教仕之方戒世俗競流之習試行朝 其官清擢薰蘭秀分喬木大日黃鐘之在溪靜而自和 事殊况涉縣灘之治渺雨凌風震尚祈厦屋之懈懷瞻 諸公之致雖草根未工於倚馬而範車素取於獲禽昨 叨漢闕之班今問剡溪之戌胃然來只何所恃哉時異 向之深染濡則淺 將莫邪之藏鋒動而有勇出處具存于短發表裏無 通王憲幹釋桂檢法康老啟 本堂集

割し 30 淩 漢闕斯今問成于則溪時異事殊况涉縣難之浩 操旅飲恤之仁自古惟刑之設官其必以賢而為輔故 一多定四月分書 粗 武來赞使軽風肅賓筵助編斧平反之議春回藏筆 凡學道罔不盡心峻倚霜臺應喜星沈子貫索清歸天 風震尚祈厦屋之所蒙桂故云 逃羅弟之朝烏幕辟書很辱諸公之致一昨切班于 分 看雲近于蓬萊某佔畢陳編齊板末第鷺州冷席 卷五十九 所將 枌桃 榆李 有俱 社春 渺雨 易震

									•
ところい これ								1 1	2
K.									•
_7		1		'	1	1			1
۲,		1		1	ł	ľ		!	
•		1		1	l	1			
2)					l	l	1		2
71									
>		1			1	1	۱ '	1	Ħ
-		1			}		i .		
~						1	l	1	
-					ì		!		В
-		1			Ì	i	ł		н
5		1			l	ł	ì	1	
•					['		l	1	E
- 1				İ		ļ	l	: 1	R
- 1		1			•	i	i	! :	5
'					1	I	i		P)
1		1				1	ĺ	. !	The second
					l	1			3
1		1							1
Ť.					ľ	1	ì		
i					i		!		7
i					1		ı	•	E .
1						1	i	, ;	ACCOMPANIES OF THE CONTRACT OF
- 1							!	•	¥
- 1						1	!		N
本堂集									1
₹				į į		1			
4						1			f
						1	1		ľ.
#1						1			ű
4.1						{			8
- 1						l	i		ŦĮ.
- 1							;		5
- 1						l	:		7
- 1		1			l	Ì			ŧ
- 1						ł	:		2
- 1						i	!		ř.
1		1				1	i .		12
1		1				ł	i		¥
- 1		1				l			la.
- 1						Į	1	ì	3
- 1		1					i		2
- 1		l I				I	1		8
		1	1		1	!	1		£
		J	l		1	l	i		ě.
- 1		l	ſ	ļ	l	l	İ		3
ì		ì	1	l	}	1	i	1	Ţ
		I		ì	1	I	Ī	1	4
		I	l		1	i .	1		8
1		i	1		l	ł	i		£
		I	l	!	l	l	i	1	1
-		i	ì		1	1	1		6
- 1		1			l	I	1		1
1			i		l	}	i	'	•
- 1		1	l		l	f			9
- 1	l	Į.	{	l	ł			1.4	#
ı	l	l	l	l	l		1		裏
- 1	l	i	1	l	1	1			¥i
- 1	I	1	1	l		1	, ,	3.	8
- 1	l	1	!	1	Ť	1 1		L !	, Fi

多好四库全書 本堂集卷五十九 卷五十九

欽定四庫全書 息敬裁尺素往贄大弘恭惟其官清映銀潢秀騰玉牒 文章輩唐之賀白正而自明禮樂宗漢之間平和而有 外臺赞畫聳聞蓮幞之聲華下邑承流劃報瓜期之消 啟 本堂集卷六十 通常平趙帥幹確大啟 宋 陳著 撰

節出處俱存于短獲表裏無得而瑕疵專凌潮于丹梯 編齊攀末第點洲冷席粗逃羣弟之嘲鳥幕群書很辱 菜自欲應接山陰之勝遂行朝武來佐庾司足國裕民 既踐歇于華貢火燃熱杖便合校雖天禄之書雲近逢 諸公之致雖草機未工於何馬而範車素耻於獲禽昨 姚其壽已有洪洪之問行看鳳幹趣入鶏行其佔軍陳 出平準書之議論觀風問俗神杖斧使之勤勞特云婉 叨漢闕之班今問剡溪之戍胃然來只 何所恃哉時異

夷途交行碑於衆口乳鸞在沿固宜溯紫以凌青馬樊 大日黄鐘之在廣静而自和干將莫那之藏鋒動而有 向之深染濡則淺 **次定四軍全書** 事殊况涉縣灘之浩渺雨凌風震尚祈厦屋之好懷 勇既自有家傳之宦譜何難辦天下之事功專縹組於 外臺赞畫久飲淨雪之聰明下邑承流將效戴星之出 入敬裁尺素往勢大函恭惟其官清擢董蘭秀分喬木 通茶鹽汪提幹整改 本堂集

範車素耶於獲禽昨叨漢闕之班今問則溪之成胃然 鷺序之歸其佔畢陳編躋攀末第鷺洲冷席粗逃奉弟 **熬特云婉婉其籌已有光洗之問行看鳳綸之下五催** 羅賢乃使依紅而泛緑使軺借重賓幕生輝賢謀子觀 金岁日 風 來只何所恃哉時異事殊况涉縣灘之浩渺雨凌風震 '嘲鳥幕辟書很辱諸公之致雖草檄未工於倚馬而 問俗之行益清廉察致勞乎養海摘山之課隨釋煎 祈厦屋之好蒙

次已日 草白雪 趣公歸 志分內功名出小小而不凡辦多多其可想鑑湖遙閣 方自適於雅懷米廩木天正有須於重望將有部下以 朝武來佐使軺頓增禮樂之華坐問談笑亦有澄清之 揚鞭然和鸞母應節以徐鳴据瑪豈疾趨而取快寧迂 其官間世鉅材濟時偉罷魁下六星之光彩炯炯元精 胸中九雲之襟期亭亭物表自巍科之拾芥盖要路以 通翁帳餘游改 本堂集

路篇緇衣之好姑一時為烏慕之遊掏水蓮池清甚花 華然而和鸞每應節以徐鳴弱瑪豈疾趣而取快既當 中之君子倚身蓬閣快哉山上之羣仏 金少世元人 之英及空臆于玉墀不减梅溪之望盍携聲問徑上清 其官清權董蘭秀分喬木大吕黃鐘之在溪静而自和 干將莫邪之藏鋒動而能勇方抱材于里第皆謂槐堂 通沉支鹽夢忠啟 通王無愈端改

節以徐鳴琚瑪豈疾趨而取快學舒表著之武暫處均 之三千其言載道盍擔聲問徑上清華然謂和鸞當應 |聲子園橋兒帶之億萬如公幾人及空臆于丹排禮樂 世 2 2.17 3 朱張之正傳表裏無得而瑕疵出處具存于矩變方監 鹺局從容暫試和美之手琴簾瑟縮正深掣肘之懷幸 輸之官膠高之舉于中功名已遊傳說之用汝作事業 **姓向上規模看搜與皇愛之好樣靠東學問得周程 跡于同袍敢贄名子尺櫝恭惟其官稟姿天秀眼空** 1.11 本堂集

既敷宣 愛之心同年固有情乎乃密籍將樣之力其為歸後罔 涉將超瓜于下邑敢勢續子中涓恭惟其官一戶古心 虎皮峻坐久膽師道之等嚴是爲早飛方媳官途之跋 通漢闕之班來問剡溪之成立官以為長也亦欲推學 方芽行班鳳綸催觀龍哀其齊攀末第展轉十年反教 人為當備鶯州之講席曰知已未屢從烏幕之辟書偶 通稽山尤山長棟改

金丘四月全書

冷席粗逃羣弟之嘲烏幕辟書很辱諸公之遇雖粮筆 節以徐鳴暴馬魯判之横經人知仰北及是稽山之正 巍科盍鳴鞭于要路然張瑪不疾趣而取快和鸞好應 之業行有風經超歸猶行其佔畢陳編齊攀末第鶯洲 席道有指南凡闡明孔孟性命之談政培植竟舜君民 之霧月去處具存于矩獲表裏無得而瑕疵自拾芥子 百年間魚和而有制大程子之春風清不自奇濂溪翁 へいしつ mi /itin 未工于盾鼻而靈龜素志于杂順幸通籍之己諮願抱 本堂集

琴而自試縣令承流而宣化吾斯未能君子學道則爱 花縣借才夙仰師垣之上客瓜隨趨成偶隨賢轍之 塵交組有期勢函惟謹恭惟其官別雲峻閥起日脩名 然和鸞每應節以徐鳴瑪瑪豈疾超而取快揭來藩輔 知卓爾英游異乎流俗是宜通金閨之籍盛白王之堂 官學典刑富貴逼人而若说風流醖籍詩書有味而自 何以教我 通交代權縣江監稅極啟

|銀定匹庫全書

新出小小其不凡辦多多其可想已聞老稱共歌桃李 者悦殆幾岐市之無征盡職之外何求當路之間爭致 自勞分坐虎皮僅免朝于羣弟更棲烏幕偶見録于諸 之陰清將與神仙同駕蓬萊之雲近其一科奚補五辟 百年而後修經界之政獨泛雪舟一日不可關親民之 ころうう 官就行墨終果不動色而羣吏永立少試手而百度內 之地好司關權之權密察而寬見謂陳留之有德往來 公選海幸而獲逃縣灘廩其欲涉若為緣會兹忝交承 1.1 4.1 本堂集

一多定匹库全書 嗚 車心之所倚言不能盡 忠以告新必不爾音之金玉永以為好母慙他日之笠 達趨瓜僕僕數櫝夔遊恭惟其官清映銀潢秀分玉葉 望高貲府久欽大雅之不羣職重字民殊愧俗儒之未 節方巍科之拾芥盍要路以鳴鞭然和鸞每應節以徐 文章輩唐之賀白正而自能禮樂宗漢之問平和而有 班瑪不疾趨而 取快自一行之作更復再轉以為丞二 通趙延賓天改

大己了 sol Citation 修尺廣往贄文弘恭惟其官姿抱天秀眼空時流干將 晴雨之殊依向良深敷宣罔既 難凜其欲涉同官為僚將締雲仍之好赴廳議事幸無 朝於羣弟更棲烏慕偶見録於諸公選海幸而獲逃縣 鳳枳淹賢已儀庭之在望牛刀試令偶問路之有期庸 松千竹之間固便雅趣八座六曹之任轉待老成將有 催不容淹久某一科奚補五辟自勞分坐虎皮僅免 通杜簿英强改 本堂集

幕偶見録于諸公選海幸其獲逃縣難凜其欲涉經歌 多定匹库全重 學道恐難免其廷疎簿領有人幸相資而料理 莫邪之藏鋒動而有勇大吕黄鐘之在漢靜而自和嚴 領于簿曹昔徐子之在魯山隨有集賢之薦鄭公之去 君子出處之方絕世俗炎凉之習寧少廷其朝武以暫 氾水即膺御史之除既軌轍之迹同將絲綸之命下其 科奚補五辟自勞分坐虎皮僅免朝于羣弟更棲鳥 型別次中

樂為少府之遊子餘在同列之中知名以學景昇為刺 我於壁水之間英華已露速所桂於丹墀之上姓字尤 是趨瓜往哉贄櫝恭惟其官姿抱天秀眼空世經方育 偶見録于諸公選海幸其獲逃縣難凜其欲涉垂五色 科奚補五辟自勞分坐虎皮僅免朝于厚弟更棲烏慕 史所爱苦節斯旌好看鳳終之班早應鵝難之識其 香便宜策足于華途必然範車于大道雅傍曲湖之勝 劉渭南之吏能人碑遠播陳太丘之德政家譜無傳及

敬以先恭惟其官天分甚都風流可挹習法度憲章之 驛笑遊訪雪之溪不知人醉而我醒惟覺聖清而賢濁 脩才發動小武曹丘老令攜琴來題瓜戍為寮伊做贄 捧固知暇日之從容種 將直上否亦平分其一年問關十年奔走虎皮分坐幸 侧 久絕過腐儒于簿書期會之間多種陰德厭踏軟紅之 開使者已深賞于壁題有若即君寧久淹于筦庫行 通孫監務世輔故 縣花幸共春風之披拂

欽定四庫全書

ここう ここ ここ 恭先遽辱使函之逮下恭惟其官道德之具文章之 笑指行圖輕遲展購窮棲旅瑣方忝飛見亟謀檢在以 科率兩來前凍乎沒後奉邑而號慈母編慕古人議事 逃奉弟之嘲烏幕贅員狎被諸公之辟偶離選海欲 而過長官願從今日書不盡者躬以檄之 兩火一刃信地靈而人傑千嚴萬壑盡氣蓋而胸后學 灘讀律欠精若為當于官於論材素批何以了于催 通謝寄屠停雷發啟

舒定匹库全書 賢而况新安亦曰道院將見方外之懷可識中書之狀 而自暢人皆欲挽來而莫得公獨以歸去之為高與李 從分丹桂之香便合寓紫薇之直然瑪吳疾超而 **絳為同年豈忘子舊自注云與處歷君以別駕使信其** 材于李掾見稱廉平筦庫之職勞而弗辭經歌之化久 除機會來時梯升有日其踏攀末第展轉十年分席鷺 和鸞每應節以徐鳴屈高士于枳軒不屑勾檢試報 閘 相君言馬密致賢材之薦天子若曰早與少卿之 取

祈 宰武城獲事陽城之居晉鄙使爱人以德或容竊蔭于 之班今問別溪之成胃然來只何所恃哉不圖言偃之 州幸免朝于奉弟授書烏幕偶見録于諸公暴切漢闕 · · · · 榆則為政不難庶可回春于桃李通名之始因謝以

本堂集卷六十			. 1

12.19.4 2... 墨級效官設該書生之迁說翠面薦士遠切師帥之殊 欽定四庫全書 本堂集卷六十 啟 謝饒帥應龍舉形改 舉詞云政而有文勞而不批路碑交誦其美品 錦粲然復新 本堂集 宋 陳著 撰

此行甚勇謂可鳴絃將有所為動成膠柱民如兒而失 菲俄五紙之橫花轉而超漢闕之班及此問刻溪之戊 之學循或因而知之偶然得官處其非分誤諸公之米 者信書成癖執器為方六尺之驅欲先立其大者一貫 又安得有人物之全使或被於過譽恐過來於羣請如某 俗薄之如今未睹偏長孰能東美况欲取諸縣難之險 知得非所求榮甚而懼竊惟其官聖門重四科之該政 不兼文陽城安下考之書勞寧蓋拙以才難之自昔而

多定四库全書

寒六十

哺吏若兒而能神牒訴之委滿前幣度之儲築底平 自 輸 無 慚絨 明交吠雪之聲然而去就之際在我甚輕禍福之變 亦 亂 稅 徒挟貴門 衙 料第恐有慙於知己唯以必葺而為心未知焉 霸齊市者軟生亂舊縣 宰 癬 平 以治其次莫如猛終 贵势虎而翼 凡宗 汝等 原者不肯輸 税减 赋人 須至 本堂集 翼 納七衛 者此此 等王一脩 **文**齋 不忍施寧為俗吏之 音餘府 不. 自 良瓣府 是而說期 陰 肆含沙 山视 赋之 充福 得其 稍日集吾 者

盡光禁合壁連珠未足貴重殆如昌趙之酷皆忘其落 功名之會寬収人才執歐蘇文字之盟樂誘後學謂仕 鑑之誤加兹蓋恭遇其官元氣所都古道之的據韓范 敢侮之以善教謂之忠庶其可也免贖康而己幸敢倖 之轡持縱而寬單父之肘不使之掣在下位獲乎上誰 易近民人或議其問問高明在上公獨信其脏恥朝歌 盖肯以迁儒而自鄙庶相字於己日俾盡革其餘風平 題於其他忽切飛櫝之褒乃在積薪之上一章四句不

愛定四庫全書

ここうを こう 學該今古心妙經綸天霞雲鶴之高標亭亭絕俗水柱 宦莫難於為色其規獻每足以觀人棄短取長楊清激 拜共歌畫編之樂劉温吾道有光萬物生意恭惟其官 遂終身之大願寸丹所係點墨非誣 存勉求新益投身沸馬未知盛德之能酬託迹似墙以 濁遂使詩書之餘子亦家姐豆於公門县敢不恪守素 庭綸海屋庫節分華宸展簡知暫借星車之重鄉關望 賀浙東劉倉良貴改 本堂集

雪車之清氣凛凛通人敷名將掀揭於两間夷險不轉 神學特推豪未水壺清徹污吏望而毛寒水鑑平明小 知致主必欲以孔顏之事業直可使堯舜其君民此共 隆要不然今日之舉奚必我公之求浙河以東復快想 清之寄非宏才博學安能為裕足之圖爰資英儒以副 實為扶翊其印者久攬轡其誰非碩德重名不足任澄 人得以情白惟事人之道直或得誇而名隨上念沛豐 一節出則未幡皂蓋嘗切為民入而金掌玉墀惟

金定四母全書

卷六十

超歸駒轡其信書成癖執器為方切級未科恐負平生 文已 Diet Likes 岩為孝地受容受察唯知潔己以奉承可睹可親幸許 於則曲始謂鳴琴而可治竟如膠瑟之莫調忽戴蘇天 淳熙之政績嚴康之上方畴谷慶歷之賢才行俟鳳凰 奎府陞班日畿董師鋒車向關帶江淮秋水之清英湯 及門而造請不盡賀意寄諸無言 之志辱知當路不解屢辟之勞獲通籍於周行或移舟 賀淮東總領元餐除两浙漕啟

中極既今四輩之趣行且與羣臣而熟議西北之事當 倚天正吳越福星之度給言海發與論數騰恭惟某官 **養之思惟帝念功在師錫命俾入承於客肯以自近於** 果而士餉而歌時作焚龍庭之氣敵知有備盡銷投馬 知並躋躡於緊指實栽培其遠業比領的即使昭外庸 光嶽間生斗山重望序漢相傳家之宦譜有徳者與主 金河四人自 知寓直秘書蚤極諸儒之選學為宰相親結九重之 公仕國之文盟嚴聲以大惟品萬而莫及自官威而

欠己日至 11A5 1 **林蓋土齊民貧難食常如於飢歲山深俗礦輕生殆甚** 轉而趨班及此代成謂可以鳴琴而治胡然如治絲之 方切級末科恐負平生之志辱知當路不解屢碎之勞 一勞蕭何輗飽關中即有相國之拜某信書成癖執ゐ為 **該詳明效易為最聲可待為氏給車河内未酬轉運之** 本以移鄉榮足國裕民則局面語熟觀風問俗則人情 俾將澶於神舉天下若曰迁途吾君則有深意以壯那 審隨見活棋東南之力可憂盡資将及西流思於華闕 本堂集

何遲重一道風霜之寄有識相慶不聞異解恭惟其官 |衣繡起家褰帷問俗轉釣南定新九天雨露之次弄 當路喜而不寐唯雅夢於軒墀察其所安倘在情於轡 策其為依向問既數宣 平生之素志或可設施老夫似巧於從人明公適來而 发发谁復諒其區區思得名世之大賢以為歸倚庶使 於他鄉泉狐強伏以思號鬼城密藏而伺隙久已為之 賀浙東韓憲禾改

金月四月全清

ノニシー シュー 得以情白金堇峭潔污吏望而毛寒佇有闥於咫尺之 雅望不足以鎮肅爰提愚節特昇儒臣水鑑平明小 帝腾左淅時維南陽非長才敏學不足以割治非碩德 **昧放沃上心雖疾驅有遠到之期而少却乃怒飛之勢** 光隨塞於兩間以文印之單傳開明後學以講師之三 天宜徑造於釣衡之地第恐詔召先於政成某嗜古 上事功看韓范富文之好樣自姓字升聞於九陛而聲 元氣所都善類之主靠裏學問是周程朱張之的傳向 本堂集

心或得展布若為之地忽有我天盡日拙勞帳無暗而 瑟而無措思得道誼之宗主以為依歸無幾學爱之初 免此身之愧作庶全存其在我敢燒覲其有他仕而為 一色與世無味父師左右頗聞所學之指歸守宙中間欲 欽定匹庫全書 貧初非得已使之為宰亦自信之追抱琴而一來甚勝 負弩麥身容察異有路以登門 詔起家外臺司泉繡衣持斧下解漢日之邊熟路駕 賀新除浙東家憲鉉翁 卷六十一

献吾國自為之精神天下想聞其風采男廼縹組燈然 車未覺周原之遠觀瞻之下精采維新恭惟其官高 Start on the 在帝心將納於清徹之班好罷以光華之遣况地以近 瑞善類相觀雖材鉅而難容譽重而見忌然薑桂之性 行碑出長則任州縣之勞細民胥慶來儀則為朝廷之 勝饕竒自西蜀而來萬里培植傳家之業發揮經世之 獨辣松栢之安自堅吾道非邪重為己任有臣如此簡 山遼學淵海出塵拔俗生東坡之後百年外人也 本堂集 攬

多好四群生書 非 澄清之望行且柄用此特刃餘某嗜古如餡與世無味 白金藍峭潔污吏望而毛寒上以廣欽恤之思下以副 弄印之己外豈無攬轡而先登水鑑平明小人得以 精嚴如周茂叔何以洗完坐起我公往欽此寄不 而重而今之持属者難非深厚如吕坦夫不能請變 庶全存其在我敢係凱其有他 師左右頗聞所學之指歸宇宙中問欲免此身之愧 嵊縣初考謝劉 帥良貴改 卷六十 情 洪、

雲其培植人才乃平生心以激揚吏治為第一義是今 其區區蓋轡而稍寬則朝歌治財而或掣如軍久何不 思夜半之號毒域何水邊之影人皆為之岌岌誰復該 簡而尚繁未能化服惟科寧松而無巧又寫公供妖於 有受容而不知謝伏念其得官己晚試令何堪聽訟欲 臺聞弘開容倚萬間之庇絃歌强學濫叨初考之書安 有我天詎至今日茲蓋恭遇其官光岳間氣國家鎮臣 一卸觀風清映浙河之秋月十連作屏横陳蓬惠之瑞

LA COLLA TOTAL COLLA SALVA

本堂县

言無負於襟期能勿論乎尚有方來之歲月 扶持不能布多謝之私何軟被好解之電水為好也願 未知歲月之何如明鏡懸空尚鑒水霜之自屬 迁潤亦籍成全某敢不益謹嚴脩不忘所主輕舟涉險 又倍之竊念果偶然得官及此試令惟科甚批幸其相 琴不韵下考濫書質情有來高情過譽榮斯多美娘 而樂輸爱民雖勤或者未沾於實惠常虞曠敗陰籍 回寄居張尉賀考改

金月四周百言

次足田事全 識之詳某嗜古如餐為貧而仕得地百里倘酬學愛之 學裁桃李愧非縣井之流風企至粉榆喜接吏仙之清 吾儒所學豈在該兵第煩司警會被鳳綸之龍早請鶴 之班廼廉取亏刀之職一命以上皆可及物况最親民 範模獨正道將行其自信時雖晚其奚傷盡徑濟筆索 東菜先生之鄉俗德誼相先乘馬人節孝處士之家風 望徒得君重實獲我心恭惟其官出月襟懷連城先價 回徐尉浅通改 本堂県

幸少府之肯來似老天之為我並惟行色好尋野路之 繡衣行部所至肅清墨綬效官乃叨陞舉曾無平生之 梅願結淡文共飲雪溪之水寸心所獨尺櫝未弹 初心報政期年不減批勞之舊態未知善後政賴同寅 金グロんとう 可謂特達之知其竊惟監司之官要在楊清而激濁 謝家憲鼓翁舉性防改 舉詞云卓然有立介而能通使居臺閣之官實 允縉紳之望

たこりいっしこう 謂山深俗美可適意以鳴琴而世異事殊竟後身於沸 志幸獲近於選穿遂來遊於縣難碩聽雪溪客運霞墻 一競競子本色授徒鄉曲妻冉冉其中年偶然得官知其 ·莊其薦引况如某者梅枯循活茶苦如甘受命父師凛 之患譽阿毀即墨鮮不感於所聞使肥康中弁能無遺 一縣令之職類稱學道而爱人至於訪察之初每有蔽欺 於未見自非捨之世粒之外識之古眼之中則於派寒 分亦曰一命以上皆可及人茍得百里而君無幾行 本堂集

家包函免賜汰斥方無躬而自幸忽薦目之遽騰靖惟 悟而罔覺居今之世豈其徇俗之皆非泥古之心亦以 · 門然而迁乃其學松本於姿紛子應酬而無涯隨所抵 渺 **榄轡之來未敢望風而走除途以俟將為請命之圖過** 為何人安能每事而盡善惟知無過之地當反而求如 金好四月全書 其獲罪於天殆不可逭徒恃二天之覆以為一日之安 信書之成癖怪屢遭其吠日毒且伏於含沙自領此身 然何以得此取諸賓客則遊從之未當采諸士民則

大田司 101 2117 首舉非才其敢不謹謹受持惺惺點檢功名餘事惟憂 切平明凡或品題之過情蓋有作成之深意遂從屬部 泰山運用天下之規模十分正當揭取人才於衛鑑 未深立何能卓山林之勝循痼分奚以通至云居臺閣 根撥而見花畧去枝葉載披華家益陳懦襟松栢之寒 已尤莫喻如南軒取滋味於食杞勝供膏深如康節以 是非之方起領獨行於公道若有出於私情人固難知 之官抑恐發縉紳之笑茲蓋恭遇基官斯文元氣善類 本堂集

墨非証 道誼之難盟宇宙中間幸有門牆之為主寸丹所倚點 金公四屆全書 本堂集卷六十一 を六十一

欽定四庫全書 12 c.) 0 col 1:11 確碧幢而植節清照連城騰 翠刻而薦才遇推屬邑惟 啟 本堂集卷六十二 謝劉帥良貴舉壁防改 學詞云醇實無華脩節不茍以儒為吏百里德 宋 陳著 撰

官 他求本是山林之性貧不自活勉為牆屋之遊偶然得 於派寒誰其薦引况如果者茶之餘味梅之宿根苦無 能無遺於未見自非捨之世味之外識之古眼之中則 求之者弗子故得之者為榮竊惟監司之官要在楊清 庶幾行志幸獲此於選穿遂來湖於縣灘碩瞻雪溪客 有蔽欺之患譽阿毀即墨鮮不感於所聞使肥廉中年 而激濁縣令之職類稱學道而爱人至於訪察之初每 知其非分亦曰一命以上皆可及人尚得百里而君 をハナニ

|多好四, 厚全書

欠この日から 一 通霞崎謂山深俗美可適意以鳴琴而世異事殊竟投 心亦以信書之成癖怪優遭其吹日毒且伏於含沙自 身於沸馬然而迁乃其學批本於姿紛守應酬而無涯 苟全存而已幸何推借之敢望蓮非富花凍翁自爱杞 而求如其獲罪於天殆不可追徒以泰山之可恃忘其 領此身為何人安能每事而盡善惟知無過之地當反 隨所抵牾而罔覺居今之世豈其徇俗之皆非泥古之 水之為危朝歌之響持縱而寬單久之肘不使之掣 本堂集

深意遂從屬部首舉非才其敢不謹謹受持惺惺點檢 斯文元氣善類泰山運用天下之規模十分正當揭 私襟唯謹樸而自將豈醇實者循强勉之不足如修 惟苦葉坡老所求人固莫知已循未喻載披華家益快 多万正過日書 人才之衡鑑一切平明凡或品題之過情蓋有作成之 何未知飭吏之以儒安見及民之有德茲蓋恭遇某官 欲報之德不知其他 河世變未知 一葦之可航松相嚴寒尚有寸心之 舣

はくこ ノ・4 ・・・ 有身居紫清界之間而能目及塵埃吏之底况如其者 此之武城而後見魯恭化理之迹不往中年而奚聞孰 之若驚感而至激自古在昔知人為難子游學爱之心 山邑承流徒重拙勞之處地官薦士誤切特達之知 謝京尹潜户侍說友舉程改 學詞云才具既優風力尤勁詢然色最溢於塗 應認薦詞云端介而不徇乎物 本堂集 得

其吹日毒且伏於含沙自碩此身為何人安能每事而 豈其徇俗之皆非泥古之心亦以信書之成癖怪屢遭 本於資紛乎應酬而無涯隨所抵牾而問覺居今之世 以鳴琴而世異事殊竟投身於沸鳥然而迁乃其學批 來湖於縣灘碩瞻雪溪客通霞橋謂山深俗美可過意 皆可及人的得百里而君庶幾行志幸獲逊於選穿逐 茶之餘味梅之宿根苦無他求本是山林之性貧不自 活勉為牆屋之遊偶然得官知其非分亦曰一命以上

|多定四庫全書

欠こりる こう 體者誰兹板曹屬之我公而儒術行乎天下以不可違 追况善政本不在於催科之未而近制乃以為課吏之 盡善惟知無過之也當反而求如其獲罪於天殆不 紀為苦硬之葉 放老所求遠削奏通以陷祭進載被 主維其己幸何推借之敢望蓮非富貴之花凍翁自爱 及膚緩之則上無以供急之則下盖以病兩難之際 先國用之需因日捉襟而見肘民生之困又以剥牀 期會請捷於應聲以未易治之姦蠢聞嚴於衣濕伊 本堂集

金定四库全書 為主寸丹所倚點墨非茲 取人才之衛鑒一切平明凡或品題之過情蓋有作成 官斯文元氣善類泰山運用天下之規模十分正當揭 家 草林林株五枝易窮於才具乎奚有一痴不化謂風 力而則非何最狀之足歌恐執事之過聽兹蓋恭遇某 深意遂從屬部首舉非才其敢不謹謹受持惺惺點 功名餘事惟憂道誼之難盟宇宙中間幸有門墙之 巴 **刻趙登仕登城謝清請改** 卷六十二

樂有賢久兄自相師友學必先器識發為文章議論切 與有禁胡然過謝恭惟其官先輩則溪之秀衰日如春 得意來歸應處少年之塗抹 先果快觀香名笑迎喜氣東書此去共看平步之等閒 於救時功名特其餘事此就墨而羣試宜凱奏之重新 宰得人子尽擅奇於鄉校兄及弟矣果連捷於計贈竊 取百焉編東西浙而曾幾一為元者看大小宋之争 回 **划趙登仕文炳謝南詩改** 本堂集

一 一 如 庫全書 素深相知尤切助喜雖曰等閒而平步實映此圖因思 讀書本不為名而進身必由樂業以此衆戰恢其及餘 丰度崇深天孕越山之秀筆端瀟洒地函刻雪之清謂 兼何謝我為請為君賀恭惟某 官經歌几席師友家庭 鷚薦羣雅莫重千焉而取百雁行屢中罕聞二者之得 塗抹之少年恍疑昨夢 以東西避文瀾之層出斗之南北占魁柄之横陳基 回刻童秀才謝解啟

鄉老獻書而王受後放其尤縣次續食而計偕莫供是 役何多謝我倍切欣然恭惟其省元秀孕越山清函刻 幢還占蓬雲之近列城刮目吾道增光恭惟其官根 近至爾力也期楊葉之必穿 就有司而羣試喜奏捷之重來政予望之念蓬萊之曾 雪顏居雖陌碩所學之何如韓業既精要其勤之亦甚 出編西垣作鎮東輔項辭紫界垣開蘇月之明令據碧 賀浙東常帥懋改

大臣日日 1

本堂集

宣不能拜禮與於嚴康而偶欲借襲黃於畿甸上久 重輕乎何問乃頒龍命匪曰迁途共傳前日之福星復 而軫念必得儒臣而踐更謂左右馮翊之攸關於內 見屢與宣室之思吾今召若孰謂淮陽之薄重為帝 尾陪班光昭先德為第一人才之選實二三執政之階 越具縹組以來深矣縉紳之望另冠執法綽有祖風 有志乎濟時足當重任惟源流于古蜀尤磊落於令人 華萬精神水雪范景仁無心之為勇見謂至誠張忠 金公四月至書 卷六 豹 不 鄉

えこうし 心而或獲那第豪强之凌樂折以理而弗甘雖與鴻 為恩沒存活民命以充大用式副隆知某本之老心 以苟安或虞鬼城之竊發强飲清溪之水獨悲出岫之 歐之迫别况此古到異乎他那問間疾苦之隱微盡吾 領東方之的節指秦堂以為實地壓伏吏饕翻鑑湖 難達使公獨為此來造物 '癯骨中年入仕書生氣習之難除 然禍福無常天地臨之而奚恤依歸有舊春秋知我 本堂集 何其巧莫前驅而負弩 一日臨民世味酸

一多定四庫全書 州東陽喬公奏官惟知於禮義上行所為皆宇宙內事章行簡之甥居發惟知於禮義上行所為皆宇宙內事 根培為華光祭斗牛存名臣家之笏自應德符讀太史 敢再拜以送書黃河一千年霜自於於會遇百里半九 公之書心傳文印偉門紫之復立善宅相之能成奪 十政有籍於扶持不盡賀忱見於言外 天陸疏祭雷封借重西風吹送帶雙溪八部之清北水 将機两火一刀之勝數騰長壤仁滿先聲恭惟县官 回刻交代李宰典宗通改

ונול אם והולוויה 粵乃縹組英然行碑糾邑非勞相與重簾於畫日從軍 之精神手驚霹震以通材居最近民之地此昔人以不 有如別人素屬賢望此生生之氣脈脚有陽春轉問問 揮之班乃注一縣而出恥捷徑以榮進辦實地之事功 有樂柳嘗擊楫於中流既熟觀西北與地之圖且與聞 足養登崇之至而下民疾苦政欲推學愛之心比通丹 阻斯外庸之積者厚盡中處以酬其勞謂上界清優固 東南民力之語濁世公子惟祖華腴田暖農官又嘗熟 本堂集

學不為官家世科名之偶繼貧而就禄書生背氣之難 金分四四五多書 仁之終撫孝光弼為代已知氣色之精明 幸及時而問成政望匿站而掩瑕陳太邱所行何有德 飲不堪奉上之急符徒自唯其批勞或未免平譏誇何 循可華心勢家交肆其豪强未甘循理最是為飢而寬 **匪才速抱琴而此來甚勝瑟而莫措民俗始虞其頹擴** 下堂之功自公召之不駕行矣某栢之心苦茶之味甘 一行幾遍於江湖重寄忽切乎民社决然行志忘其 寒六十二

哲之心苦茶 而味甘山林授徒不知老之將至場屋信 代之風記圖純用於書生乃獲親見於今日第如其者 法律者去詩書城民斯甚遂使環四海之內不復睹三 始於廟堂之上而通行仁脉莫近於子男之邦粵秦漢 公造之客庸無迹然私情之真感自知蓋彌綸政經固 元 敷替化開天地之清明批令逢時出風波之險阻雖 到今如卓魯其能幾健繭絲者忘保障盜臣所為工 **嵊滿謝賈太傅似道改** 本堂集

為懼夙志自將紛雲路其楊鞭誤知獨衆浩雪溪其荡 以猛恐扞格之難通建之以宽將優将而盡廢此之謂 之水早見於連嚴之憂秋上下煎熬或星火之符當奉 垂依憑者虎翼以相越**謹**計者鯨牙而交刺况乎異常 知古轍之已非瞻言校庠彼疏既鞠問及帑廪如磬斯 樂乘與如歸昔亦有聞別循場治自謂畫簾之可樂誰 命而有時乎為貧縣迁擊之見収凡薄官之所至素飡 閻窮困而旦夕之命不謀則為一愚叢此多事急之

|多定匹庫全書

大山の100111 豪强之馬實每納之忠方稍明曲直於趙春反加以怒 職分之當為天之降才煩自量其分寸日以繼夜欲粗 怪何從而舞怪所恃在此終幸無也茲蓋恭遇其官義 為可苟然而泰山在上萬物皆有以托根繳日方中百 或含沙於無影或吠日於不陰禍福固非所知去留則 得其緒餘齊民或謂之平平巨室則為之落落宣故抗 者本聽訟次之撫字之中催科未也此先儒之至論乃 兩難之際何以副百里之心尚思合宜亦曰有序教 本堂集

歌首清宫府之一體以至簡儒流之雅望又將扇方國 全君親仁任宇宙梧桐生矣身植朝廷之衆芳苞直行 金万里屋有意 廉風氣求聲應而會乾陽長陰消而為泰遂令學製 本堂集卷六十二 荒其攜琴以歸至為而謝倘克動小物念塵埃 可以終身在造化釣陶之内由中之烟此 卷六十二

欽定四

本堂集卷六十八五五

集部

詳校官庶吉士臣李傳熊

主事臣四雲棟覆勘 校對官編修臣 總校官進士臣

腾绿監生 王

盧

遂

鈴

明

文色日南小島 欽定四庫全書 公造曲成之有意故誤恩律界于非材得之若驚祭而 公司以前衛子院 香港北京 華華華 等等 1000年代 1000年 1000年 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 1000日 100 Control of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the sta SECTION SECTION The same of the same of the the year of the said 本堂集 十六日差通判楊州次成淳上年辛未十一月 一替員做轉日邊之步此 宋 陳著 撰

實愧泛觀在昔有若諸賢召獻可既知翼城僅從定國 海萬變之難支而書生則信其迂**哄**叟則安其拙及瓜 澤因鼓棹于逵溪雪月光中凛一寒之惯忍風波險處 為富貴之花竹倚幽嚴頗自愛偷平之節漫學琴于彭 不比他官而京董之下尤稱要地雖名流未嘗輕授豈 '模劉仲優累已為狄道止簽武勝之書益賓筵之 八或可胃居其局以陋姿痼于宿習蓮生遠水分不 之杖策而歸雅子候門僅三間之破屋舉家食粥之

米于長安脚底雲生免運回之歲月面前路穩無迅渡 辦非求養于老養引胆問到具心化筆題與而口陳坐 在望衣袂自揚何處無魚羹惟欲行乎素志監州有螃 文三〇日下CM5 日 汗顏而自羞曾未輸旬乃切再命俾泛蓮于盛府就索 頃之良田况存椒桂之餘辛肯與草木而俱腐觚稜 感傍觀騎鶴而上楊州又諧暗想信用已之太過方 江山如此恩斯豈其偶耳兹益恭遇其官以太平 間養親目俱下者十行笑閱廟堂之事髮 本堂集

畫神舉本示選中之特用置身忌府或難分外之曲全 重灯で五人 報之徳難宣以言 初考閱剛此台而知自胃裁斐簡故馬輪困竊以賛 霄漢盜陪風帳之從容揮手塵埃妄許水壺之照映欲 遂令疎遠均入陶鎔其敢不進答異知退思本分舉頭 而三握樂延山澤之癯且不倦于養天要舉無于遺野 化為爐會公朝之元氣一寒發輳報新歲之東風屬 京簽初考謝買太傅啟

たこ一回屋へこう 鳥蟲之便又當聽其在天斬賦問釣分盟岸幘顧切 歲 晚蹇誰留兮中洲浩荡波流羌吾愛此初服專回舟 益積之者在須更而計之者以成月唯乾坤廣大斯免 際亦云幸甚寧不躍然然而麋鹿之姿亦自無其為 于古到謾施榜于長安問之在朝乃青天白日之世 文法之构唯塗轍清夷可安趨向之正倘匪夤緣而避 若何分寸之齊攀伏念其棲樓何為景景徒在凄凉 在位皆黄河泰山其人夫以疎遠之蹤而賭盛明

立 第 據治穰之會尚多酬應之難出思入神於馬吏舞 周官法度本關睢麟趾以為心表漢志馳驅與伊訓説 頭 此夫豈偶然弦益恭遇其官動師聖賢静鎮宇宙行 奴之殿誰不干刑社風以奉頭而逃宫貂且重足 而同意猶欲人才之相與以承事會之方殷若曰京 何 '放擬伴預籌帷之走趣黃門舅之親雖無撓致蒼 夕循環忽其及期彼時此時全壁出于過望愈言 雨叢以民争執所存之拙方動惟見之趣虧 而

金月四月子言

|次足口車公子 府之官攸關實用雖于賓僚之木亦采微勞未當深致 渝此言是負所至 天京大戸寫平日之深知風幕費員亦先音之首薦是 月來奚敢混浮沉之迹天高地下尚欲全覆載之身有 瑕疵遂獲苟逃于源曠其自今以始圖惟厥終日往 謝京尹戸判兵府即益舉世形改 舉詞云筆可扛門氣欲凌雲幙有此賢一府重 本堂集

思乃辱封非不遺之受傍觀動色前華風心如某者骯髒 為巧競時在者以脂章实佛為賢是伊木强自信之 吾愛此初服冉冉頭顱之遲晏平平資格之浮況别神 真厚之意不聞而論薦之風已戾便俗態者以影響奔 竊惟古道之彷彿多重事之牽聯凍水翁之視元城益 所謂特達之舉亦可誇希潤之逢欲發辨香斬蠲尺續 亦以舊遊之故張公子之于無已猶未忘平生之情自 蹤 选 踔于世功名念薄蹇誰留分中洲宇宙日長完

金岁日 人人

炎已日年10日 褒荷厚意之相期拊儒衷而有感筆非扛點徒颯颯 交集設不可否則本領何謂火就水流匪直隨陽之雁 頭薄命之自安豈白骨成人之敢題忽蒙甄録加以衮 江空歲晚瞻言止屋之爲葢當端居靖念疇昔以椒桂 '性不改何芝戰之嗜獨傷方皂益行春首謂朱雲之 從安得五行堪與之俱可記圖結習迄遂趨承然方 吏暨繡衣立漢欲取石生以為才甚顧四方上下之 一號衆大之區而賓筵非迁拙所處少自偃蹇則謗議 本堂集

重写 中居人 忘鄉戀其得非所稱懼甚于樂畫諸笑談何有奇于盛 聲未歇義豐先生之單傳璧記相望恕齊老子之華圖 奚神氣匪凌雲特景景者猶在是皆以愛而忘配居 府峥嵘肝膽尚不辱于公門無限東旗未殫古筆 方且于彈壓餘事之暇為收拾多材之謀遂俾項庸未 宜點而反陞誦稻田公秧之詩尤知自許在李塲江梅 數他復奚求兹益恭遇其官忠厚為心精神滿腹家 通黄京尹萬石改

とう コラここう 部人司徒行京兆尹鎮鑰非準不可久借審宣朝廷有 日為東官為御史氣貌猶類于端淳好太守好監司聲 松斯立于两之高當當亭亭了無川洛朔之三字渾渾 康肅李壽翁而已慨風濤之如此渺人物之幾何不圖 錢 服在開封日惟杜正獻包龍圖則賢縣過江來回吳 數年驟易之餘乃有第一流出當其任恭惟其官 顯益合 夸惠尹而一人早見知于先皇遂大用于今 無憂疇沿彈壓先聲偉甚衆聽竦然洪惟國朝最重

權方今官府清明係貫快活無養頭奴之賤以干吾刑 肯來實四海九州之簽属延海文昌之拜延嚴闕 **嘻外不見生矣識者相慶是以公歸兮佇二童疋馬之** 省力役而抑浮末使吾儒之效頓白則斯道之福宴昌 無黄門舅之親以撓吾政官貂且重足而立城孤已息 名祭過于閩浙西清之班家峻古都之水不渾天子曰 而民食足必好吏戢而下情通必勘竊攘而安善良必 而逃夫豈求治辨之名所當究體仁之學必市價平

多定四母全書

卷六十三

重口欲語而言輕惟今行都視開封府凡我從事亞尚 奉昌黎之書所與登庸尚可廣祖來之頌琴摩語短歸 蓉菲知末路之遭進獲與崇垣之奔走不量在斐法當 賀意長 自笑頭顱寧是向陽之花木常存面目恐慚威府之关 垣公造函覆一寒京幕贅員僥逾两載心自知其恩 7 京簽考滿謝買太傅啟

明公實優為之事任有大此者某一迁難化四知頗嚴

斯未信時乎為貧比來誤録于公朝随使再超于尹府 凄其苦學殉于鈍資山林歲月之消磨蚤成晚態枝葉 書即上惟精選其所堪下欲妄希而不可然地大物衆 風霜之剥落獨抱初心自叨一命以來十有九年于外 湖之上鷗鷺討其徒勞田里之問雞大安其為拙吾 福之變分于顰笑之微是雖長村未易全壁如其者 酬固異于尋常而天高聽甲非是莫逃于咫尺凛乎 州縣小吏或飲水食檗之餘而京即底豪非泛水 卷六十二

郵定四庫全書

とこりうしこう **緊萬殊紙舞春融誰識丹心之憂國王圍日减惟存鐵** 終更夫豈倖致茲益恭遇其官以大忠翊再造以平章 從乎何如斯可五方異氣酸鹹不能與以人 脊之柱天念事會之無窮知人才之難得其于弱植 冷緩自知其在我其間不無扞格于法宜受譴誅而獲 四帥 或治盗以吳公之剛決或去吏以包老之嚴明能無 之比故其投之以剔所以玉女以成退惟孤蹤更事 如王怕者誠為子子吃吃如少将者謹無悄悄翼 本堂集 一氣所歸

金丘匹厚全書 累曲全若曰問受鹽梅畫桂有時而為味場裁桃李樗 考灣舒旁觀其親及古風幸生今日春和皆樂豈草 京即首差純用儒生幕府底寮雖瞬郡佐端自曲成 之不如歲寒後知尚松柏之可證是之謂報過此何為 非聲望素著何以助彈壓之威非强敏有餘何以替發 /斐然直謝之辭惟神舉不比份藩而停貳實為少尹 何礙于托根曾不待于呈身乃如此之知已搞持 除京倅謝買太傅啟 卷六十二

摘之政如徒以登畿之外逐使之越陷而升或非其 來名流能終如其者髮種種美心景景然王川破屋之 而 則玷此選別東坡留印之地生氣猶存而南渡駐蹕 有逋 7. 10 mot / 12 m 於治穰之區命以關決之寄而況半赭衣之盗芝 情或者轉喉而觸諱亦自知其迂潤非所便于驅 問您楊歸夢白山斷虀之數塊馬永餘廿八宜老于 間而乃仕而在外顧瞻世事有時抵掌而悲歌酬酢 一誅五斗米之師嘯聚而能為梗欲如仁愿杖 本堂集

富進退何有乎私情登門雖多可否一裁之公該扶植 城之竊欲如王祥歌海沂之康人亦有言干羽非解圍 萬年之宇宙感會千載之雲龍逐使早飛亦叨要用某 運于十變之餘正月之吉始和陽明之徳用事夾袋雖 厚蒼生為帝者師輔乾剛以幾二之位權造物柄開泰 恐有孤于人化茲益恭遇其官養樂以同衆樂院生以 具吾斯未信負乗乃致冠之基凛然如立于薄水深 仰懷知遇益自激却近天之光非日徒分于風月

卷六十三

級寅奏敬涵子墨恭惟其官受天間氣為世偉才清水 京數借賢羨風我之彈壓思綸起發依日甸以驅馳 窮日之力或能少補于涓埃 没市塵日有赭花之盗調度奪于隊花之无藝歡訟製 我監之聯倚重神學之等策城官府雲連紫障之家出 徐步于官途得静觀于世變化弦忽改詔墨過飛陞並 鋒 樂精神之應物黄河赴海滔滔議論之驚人) 代通紫京尹 隆禮改 本堂集

手無展引規如杜開封無干私之權要知許京兆皆 出 尺于聲光宣尋常之遭際憂心應逐的有利于國家同 圖易報之初亦預招旌之末濫司庾政實在王畿 可哀欲言先咽轉機關而甚難非力量以不可幸歸 之豪强新功有成大用未晚某补忠自信迁 有關治亂在端嚴于表則與深固其本根然而積 位有言感上恩之寬大社門念咎分終老之休閒 刻木之通神尹正尊于九牧動係觀瞻京師統乎 /潤無奇 跃 四

多定

匹库全書

眼而東西之力已竭尚忍剥膚能寬然分此第一義身 右巧為之地幸出于天恭惟其官學探淵源文承法度 于當宁權武我監界以計臺方上下之利交征不堪看 有胸中之禮樂實該天下之經綸既受用于平生宜節知 寅協恭母不屑于教誨 流將漕盡提浙水之東西誤握乗軺濫處福星之左 明識到如水止以波澄涵養功深自風光而月霽益 フラーこう 代前人通陶漕戲啟 本堂集

一多定 匹庫全書 自使華之馳響共成君子之得與必有良方力扶壞證 遠 将見盡行于古道庶終無負于初心公論所歸大 植根本但今生意之有餘飛輓栗芻何患正供之不 平堂集卷六十三 用